

分野	人が輝くくまもと	戦略	子どもたちの「夢への架け橋」となる教育
		重点的に取り組む施策	豊かな心をはぐくむ教育の充実

番号	事業名 担当課	予算・決算 (千円) 上：H21予算 中：H21決算 下：H22予算	事業の概要	事業の成果、実施上の課題、改善の方向性等
1	「かがやけ！肥後っ子」事業	4,486 3,219	人間形成の基礎が培われる8歳ぐらいまでの時期の子どもを預かる幼稚園、保育所等及び小学校における教育・保育活動の充実を図り、家庭、地域社会、行政機関がそれぞれの機能を発揮しながら連携を深めることで、県民一体となって「くまもと」の子どもをはぐくむ環境づくりを推進し、「夢」のある活動の実現に向けて生きていくための基盤づくりを行う。	○平成21年度の実績、成果 午後10時前までに就寝する子ども（3歳児～小学校3年生）の割合は、3年連続して向上。 ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 午後10時前までに就寝する子ども（3歳児～小学校3年生）の割合は、各機関等の取組により、向上傾向にあるものの、未だに約3割の子どもができていない状況である。基本的な生活習慣の定着のために、実態調査の結果等を活用し、家庭等と連携して改善に取り組むとともに、研修等を通して幼稚園等における子育て支援の取組を推進する。
	教育庁 義務教育課	3,589		
2	いじめ・不登校対策総合推進事業	86,141 79,903	いじめ・不登校の積極的予防と解消を図るため、教職員等に対しカウンセリング技能を高める研修を実施するとともに、スクールカウンセラーやいじめ・不登校アドバイザー等を配置し、学校における教育相談体制を支援する。	○平成21年度の実績、成果 「熊本県公立学校いじめアンケート」結果では、「今の学年になっていじめられた」と回答した児童生徒の割合が、平成19年度の15.1%から平成20年度は12.1%、平成21年度は10.5%となっており、いじめに対する認識が高まりつつある。不登校児童生徒の割合も平成19年度は1.09%であったが、平成20年度は1.05%、平成21年度は0.98%と着実に減少している。 ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 いじめ・不登校ともに改善傾向にはあるが、依然として憂慮すべき状況にある。今後も、未然防止と解消に向け、教職員の意識の向上を図るとともに、心の居場所としての魅力ある学校づくりを推進してもらう必要がある。
	教育庁 義務教育課	59,447		
3	子どもたちの未来を拓く教育環境改善事業	-	学校だけでは解決が困難な、家庭環境等に起因する不登校等もみられるため、スクールソーシャルワーカー（SSW）を各教育事務所等に配置し、子どもを取り巻く環境の改善を行う。	○平成21年度の実績、成果 - ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 スクールソーシャルワーカー（SSW）を各教育事務所及び熊本市教育委員会に配置し、不登校等の状況にある子どもたちの環境を改善するための支援を行う。
	教育庁 義務教育課	48,178		
4	教育情報化推進事業 （安心安全ネット社会推進事業）	14,085 10,726	携帯電話の普及に伴い、学校非公式サイト（いわゆる「学校裏サイト」）等を通じたネットいじめ等が社会問題化しているため、専門業者に委託して、学校非公式サイトの検索・削除代行等を行う。	○平成21年度の実績、成果 県内の公立中学校、高等学校、特別支援学校265校を対象に、学校非公式サイトの実態調査を実施。不適切な書き込みに対して、県警や関係教育委員会、学校と連携して児童生徒に対する指導を実施。 ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 携帯電話の普及に伴い、教員の指導力向上を図るとともに、学校・家庭・地域の連携した取組を一層促進する必要がある。調査結果に基づく指導資料の作成、情報モラル教育のモデル授業の開発等により、児童生徒に対する指導を支援。子どもの携帯電話の適切な取扱いに係る県教委基本方針に関連づけた指導を推進。
	教育庁 教育政策課	13,184		
5	輝く人づくり推進事業	-	道徳教育推進協議会を開催し、方針、指標、具体的な方策等についてとりまとめ、学校・家庭・地域が連携した道徳教育の推進を図るとともに、人生の模範となる郷土熊本の先人等を題材とした道徳教育用教材の開発・作成を行う。	○平成21年度の実績、成果 - ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 郷土熊本の先人等を題材とした道徳教育用教材を作成し、学校・家庭・地域が連携した全県的な道徳教育を推進する。
	教育庁 義務教育課	565		
6	子どもの読書活動推進事業	1,924 874	・「肥後っ子いきいき読書プラン」第二次計画に基づき、すべての子どもたちに読書のよさこびを伝えるとともに将来の夢を育むことができるよう、読書応援ボランティア養成講座や熊本県子どもの読書活動推進フェスティバル等の開催や読書環境の改善を進め子どもの読書活動を支援する取組である。	○平成21年度の実績、成果 ・読書応援ボランティア養成講座を開催し、ボランティアの資質向上や学校図書館における活動のあり方についての研修を行った。参加者からは、とても参考になったとの意見が聞かれた。 ・「図書館づくりプランナー事業」を新規に立ち上げ、県内小・中学校へプランナーを派遣し、学校図書館の環境づくりや図書選定の提案を行い、派遣した学校では読書環境の改善が図られた。（平成21年度実績：延べ99校へ派遣） ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・小・中学校で、子どもの読書活動推進のために活動したいという読書ボランティアのニーズに対し、活動の場が十分に確保できていない。 ・読書ボランティアの育成と、その活用を進め、図書館づくりプランナーの活動と協働して、子どもの読書環境の改善を図っていく。
	教育庁 社会教育課	1,022		

番号	事業名 担当課	予算・決算 (千円) 上：H21予算 中：H21決算 下：H22予算	事業の概要	事業の成果、実施上の課題、改善の方向性等
7	「親の学び」推進事業 教育庁 社会教育課	8,684 8,498 5,404	<p>・保護者の子育てをすするうえでの悩みや不安に対応するとともに、家庭教育力の向上を図るための学習機会、情報、相談機会の提供等を行う。特に、各家庭における教育力の向上を図るために、家庭教育講座で利用可能な生活習慣等に関する系統的な学習プログラム（くまもと「親の学び」プログラム）を作成し、指導者を県内各地で育成する。</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・「親の学び」プログラム（乳幼児期編）及び教材「はじめよう！早寝早起き朝ごはん」（DVD）を作成した。 ・すこやか電話相談事業では、年間259件の家庭教育に関する相談あり。夜間や休日に対応できる数少ない相談先として機能している。 ・家庭教育テレビ番組「子育てとぎゃん」（6分番組×13回）を放送。平均視聴率は、10.9%の高視聴率を得た。県HPにアップし22年度以降も視聴可能としている。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・昨年度作成したプログラム（乳幼児期編）の普及と進行役の養成講座を実施して指導者の育成を図るとともに、新たに、小学生期編のプログラムを開発する。 ・課題としては、このプログラムの周知及び活用の促進である。次年度以降は、小学生期編のプログラムの普及と中・高生期編のプログラム開発に着手する予定である。 ・すこやか電話相談事業では、相談員を2名増員し相談体制の強化を図る。</p>
8	「夢への架け橋」教育支援事業（家庭教育支援員配置事業） 教育庁 社会教育課	11,723 10,528 6,728	<p>・家庭教育に関する情報提供や学習機会の提供、家庭・教職員からの求めに応じた家庭教育に係る相談対応等を行う家庭教育支援員（退職教員等）を小学校に配置することにより、学校と連携して各家庭の実態に応じたきめ細かな家庭教育支援を行う。</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・本事業により、配置校では、課題を抱える家庭を訪問し支援を行ったり、教員だけではできない情報提供や講座の開催ができるようになったとの成果が報告されている。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・家庭教育支援員を軸にした地域ぐるみの家庭教育支援体制をいかに作るか、また、配置校以外の他地域へどのように普及していくかが課題である。</p>
9	放課後子ども教室推進事業 教育庁 社会教育課	22,550 18,702 31,928	<p>・「放課後子ども教室」は、各小学校区で放課後や週末等に、小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する。国と県の補助事業で事業費の2/3（国、県ともに1/3を補助）を補助する。</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・県内32市町村68の小学校で実施。県として、放課後子ども推進委員会による推進方策の検討、指導者の資質向上のための研修会を実施した。研修後のアンケートで約9割が今後に生かせるとの回答だった。また、事業の推進・充実を図るために県内の子ども教室状況を紹介するガイドブックを作成し、各関係機関へ配布し、事業内容の理解につながった。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・放課後子どもプラン事業として、放課後児童クラブとの連携や活動内容の更なる充実が必要。そのため合同によるプラン推進委員会の開催及び指導者等の研修会を実施する。放課後子ども教室の啓発資料としてリーフレットを作成し、配布する。</p>
10	各種人権教育研修事業 教育庁 人権同和教育課	2,548 2,044 2,515	<p>人権教育推進のために、管理職及び人権教育主任等の同和問題をはじめ様々な人権問題についての認識を深め、実践的指導力の向上を図る。 (1) 校長等人権教育研修会 (2) 人権教育フォーラム (3) 県立学校等人権教育ブロック別研究協力校事業 (4) 教育庁職員人権問題研修会 (5) 人権教育研修会</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・講話や先進的な優れた学校の実践発表等を実施し、研修の満足度もほとんどの事業が90%を超えたが、人権教育フォーラムは満足度88%だった。成果としては、県内各学校・地域において人権問題についての認識を深める研修を実施することができた。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・各種研修会等の量的成果から質的効果への転換を図るため、研修内容と時間、予算の費用対効果を精査する必要がある。 ・各事業の実績等に基づき、事業内容等の点検をするとともに、本課としての方向性を明確にし、事業内容等の工夫・改善を図り、質的効果を下げないように見直す。</p>
11	人権フェスティバル事業 教育庁 人権同和教育課	1,747 712 1,747	<p>熊本県人権教育・啓発基本計画の趣旨を踏まえ、子どもを主体とした活動を通して、すべての人々の人権意識の高揚を図る。 (1) 熊本県人権子ども集会 ・生徒代表による子ども実行委員会を組織し、企画運営を行い、集会を実施する。 (2) 熊本県子ども人権作品展 ・小中学校、高校等より人権に関する作品を募り、展示する。</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・人権子ども集会は、新型インフルエンザ感染拡大防止のため中止。 ・子ども人権作品展には、「命と人権」というテーマに沿った作品が多数出品され、県民への啓発の機会となった。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・集会の運営の在り方を含めた業務の見直しを図り、充実した学習機会となるよう、集会運営、内容を検討する必要がある。 ・児童生徒の安全確保及び業務の効率化を再点検するとともに、集会運営、内容について情報を収集し、次年度の計画に活かす。</p>
12	性に関する教育推進事業（H21は「性教育の実践調査研究事業」） 教育庁 体育保健課	979 627 2,155	<p>10代における人工妊娠中絶実施率及び性感染症の罹患率が高いという喫緊の健康課題に対応するため、管理職を対象とした研修会を開催するなど学校における性に関する教育の充実を図る。</p>	<p>○平成21年度の実績、成果 ・中央研修会に教諭等を派遣し、効果的な教育方法の習得を図った ・派遣者による授業研究会を開催して研修の深化と啓発を図った ・学校で指導に活かすため「性に関する教育実践事例集」を作成した</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・性に関する教育についての認識を高め、学校総体としての取組を推進するため、管理職研修会を開催する ・児童生徒の実践力を高めるため、各学校において授業実践及び性教育講演会を開催し、学校における性に関する教育の一層の推進を図る</p>

番号	事業名 担当課	予算・決算 (千円) 上：H21予算 中：H21決算 下：H22予算	事業の概要	事業の成果、実施上の課題、改善の方向性等
13	薬物乱用防止教育推進事業 教育庁 体育保健課	— 542	喫緊で深刻な課題である薬物乱用問題に対応するため、管理職を対象とした研修会を開催し、学校における薬物乱用防止教育の充実を図る。	○平成21年度の取組みの実績、成果 — ○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ・薬物乱用防止教育についての認識を高め、学校総体としての取組みを推進するため、管理職研修会を開催する ・児童生徒の実践力を高めるため、各学校において授業実践及び薬物乱用防止教室を開催し、学校における薬物乱用防止教育の一層の推進を図る